

発売中
260円

コロナ危機をのりこえ
新しい日本と世界を
(党創立98周年記念講演・志位和夫)

市財政の余裕度が年々悪化

市の実質赤字額は1億4千万円

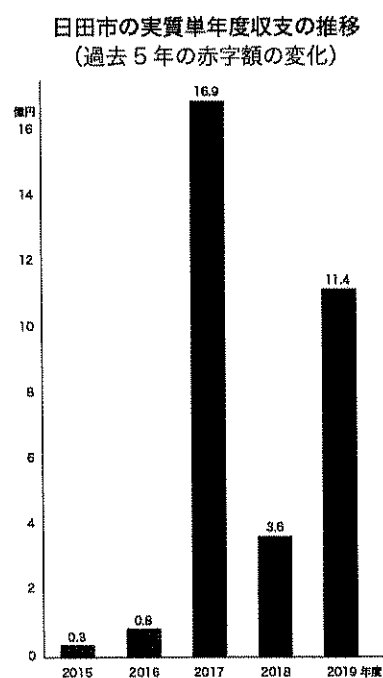
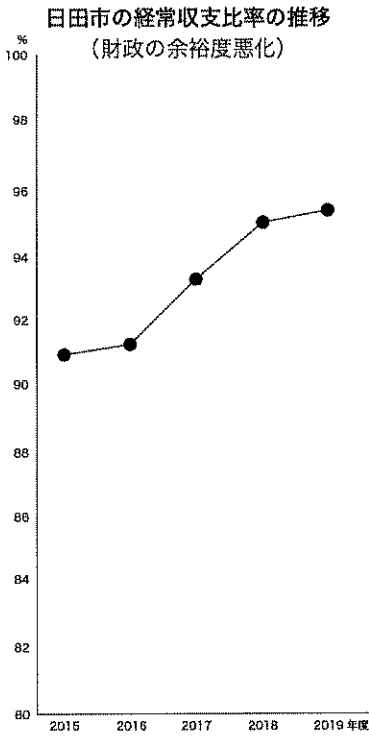
市議会は10月19日～11月2日、令和元年度日田市一般会計および特別会計の決算審査を行いました。総務環境分科会は、財政運営の健全化に努めるよう指摘しました。

財政の余裕度を表す数字が、経常収支比率です。職員人件費や児童・高齢者・障がい者生活困窮者を支援する経費など、毎年必ず支出する費用だけでお金を使いきつていけると、経常収支比率は100%となり、財政に余裕がないこととなります。

令和元年度の経常収支比率は95.3%で、財政の余裕度は年々悪化しています(左上のグラフ)。市は「厳しい財政状況の中、経常収支比率を95%台に抑えている」と説明しました。

しかし、実質単年度収支の赤字額をみると、平成30年度の3億6千万円から令和元年度の11億4千万円に大幅に増えています(左下のグラフ)。

令和元年度
決算審査



党市議団が住民と意見交換

復興街温泉
懇談会

被災者の不安や疑問相次ぐ

党日田市議団は10月28日、第2回天ヶ瀬温泉街の復興に向けた懇談会を天瀬公民館で開催しました。被災者や自治会班長など7名が参加。日本共産党の真島省三・前衆院議員が助言しました。

天ヶ瀬温泉街の早期復旧と営業の早期再開をめざす旅館経営者からは「なりわい再建補助金は改修や建て替えなどにも使えるのか」「申請したいが、期間の延長はあるのか」などの質問や、県が先ごろ示した玖珠川改修案について「川底を掘り流量を抑えるというが、泉源に影響が出るのではないのか」などの疑問や不安の声が相次ぎました。

真島氏は「なりわい再建補助金の期間延長や河川改修までの休業補償で、みなさんの暮らしとなりわい再建への道を支えることが求められる。専門家も加えた中長期の河川整備計画も急がれる。住民のみなさんが未来に向け安心して暮らす支援を、国、県に求めていく」と応じました。

市長、議員、市職員の賞与 0.05カ月引き下げ

総務省は11月6日、人事院勧告にもとづき地方公務員の賞与を0.05カ月引き下げるよう通知しました。市長は11月26日に開く臨時議会で、市長ほか特別職と市職員の賞与を0.05カ月引き下げる議案を提案します。市議会も、議員の賞与を同様に引き下げる議案を提案する予定です。